

## 東日本大震災 被災地の「選挙」と「人々の意識」 - 震災以前との【変化】に注目して -

東北大学大学院情報科学研究科・准教授  
横浜市立大学国際総合科学部・非常勤講師  
河村 和徳

2012

## 被災直後の研究室の風景



宮城沖地震を想定していたこともあり、本棚が倒れることはなかった

書類は散乱し、電気は消えたまま  
・・・研究室で2泊し、電気が復旧  
したので一時帰宅

水道の復旧は3月末  
ガスの復旧は4月中旬・・・銭湯に並ぶ



2012

## 仙台港の風景



コンテナが将棋倒し  
遠くに見える煙はタンクの火災

港の復旧には多くの時間が・・・

道路が津波の土砂で埋まっている  
流された車が散乱

この先の仙台火力発電所も被災し  
電気なしの生活が続くことに・・・



写真：山本幹・近海郵船仙台営業所長

2012

## 今回の震災の特徴

- 広域・複合的な震災である
  - 復旧・復興に俯瞰的な視野が必要になる
  - 地震だけではなく、津波と原発事故
- 「想定外」の連続
  - 最悪のリスクを想定してなかったことへの批判
- 「人」も「電気」も被災した
  - 行政改革（人を削減してITを活用する）流れに対する問題提起
- 政治の迷走
  - 中央集権の弊害の露呈

細かい検証はこれから

2012

## 阪神・淡路大震災時との条件比較

- 今回の震災は多くの職員が被災した
  - 絶対的なマンパワー不足
  - 阪神・淡路大震災の時から比べると、かなり公務員数が減少している・・・応援が容易ではない
- システム不安
  - IT化が進んだことによる電力不安・・・電気がないと何もはじまらない
  - 流通の寸断・・・コンビニ依存の課題
  - 政治システムの混乱・・・政治主導の難しさ
- 地方中枢都市（仙台市）の被災
  - 見なし仮設住宅制度などで制度的な課題も

2012

## 復旧・復興政策の視点

- 復旧ではなく、復興
  - 現場では混乱も・・・平等な復旧はありうるが、平等な復興はあり得ない
  - 何をもちて復興とするか？
- 震災を契機に、これまで先送りされた課題を処理しようとしている？
  - マイナンバー、消費税、電力自由化・・・
- 復興予算の流用？
  - 防災の原資をどうするのか？
  - 被災地？それとも将来への備え？

2012

## 被災地の住民意識の紹介

- 立教大学社会学部と共同で、昨年11月に仙台市民に対して実施した調査を紹介
- やり方
  - 仙台市民2100人を地図上から抽出し、留置法で調査
  - 調査には、東北大学がまわる
- 調査結果の一部は、学術研究に用いるだけでなく、仙台市長等にも報告し行政への活用を期待

余談：今年の11月に追調査、それに加え北部地域でも郵送調査を実施中

2012

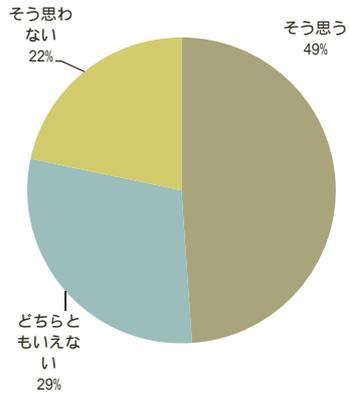
## 被災地としての仙台の特徴

- 大規模災害の課題がみえる
  - 沿岸部・・・津波による大きな被害
  - がれき処理の仕方に課題
  - 危機管理からみた地方自治体のありかた
- 都市防災の課題がみえる
  - 通信網・交通網の麻痺（現代のライフスタイルの課題）
  - 地域の「絆」の希薄さ（都市防災における課題）
- 復旧・復興の課題がみえる
  - 見なし仮設の問題
  - 都市の「あそび」の必要性
  - 拠点都市が抱える課題・・・人口流入

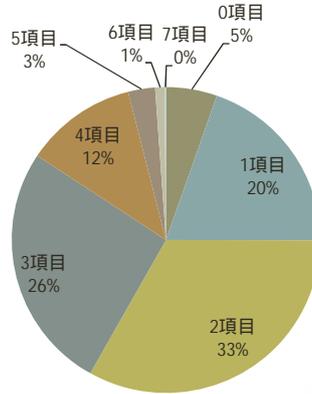
2012

# 被災の程度

被災者と思えますか？



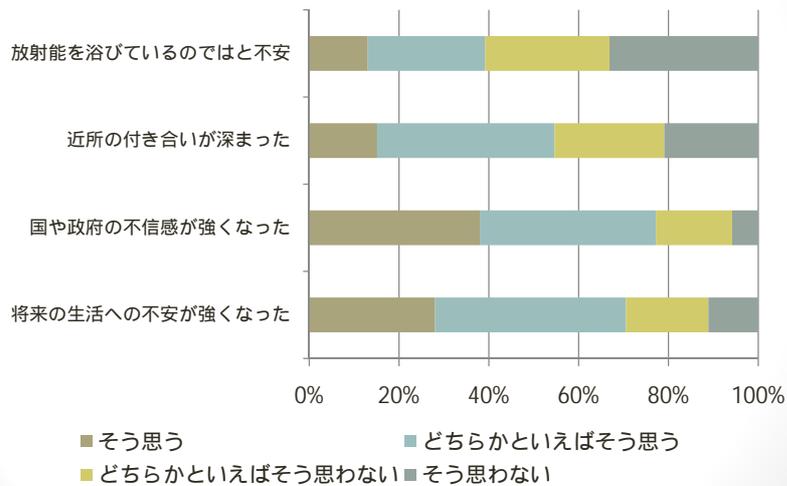
被災事項該当数（8項目中）



項目は自宅の損害や怪我、  
周囲に被災者が死傷者がいるか等

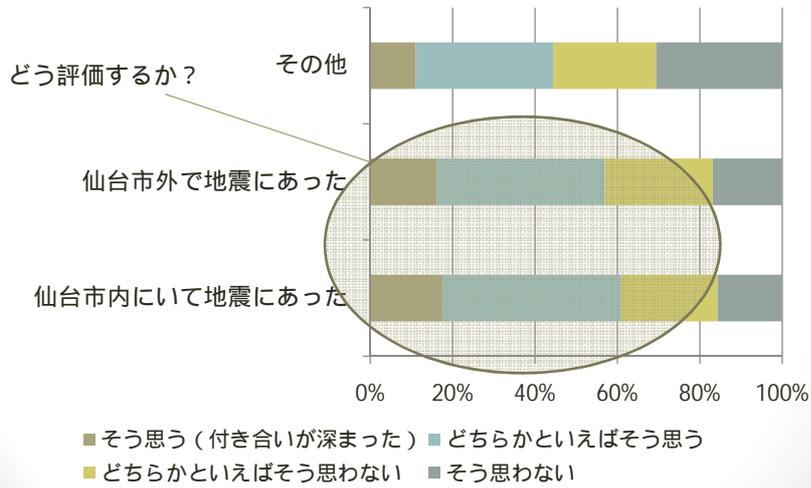
2012

# 震災後の気持ちの変化



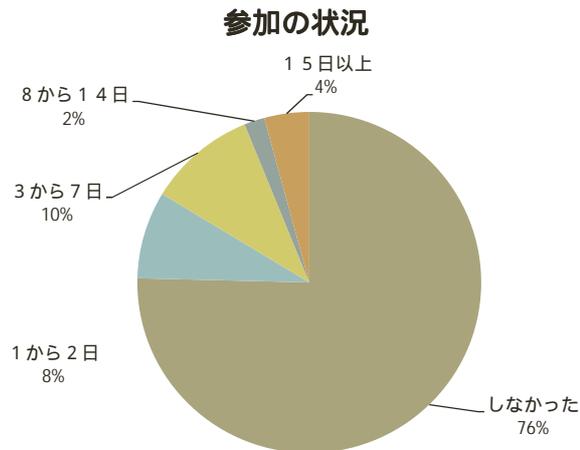
2012

## 宮城沖地震（30年前）の経験との関連



2012

## 仙台市民の震災ボランティア



2012

## なぜ仙台市民のボランティアが少ないのか？

1. 都市住民は「絆」が薄れているから
2. 自らが被災者なので余裕がなかった
3. 地域活動はしていたが、それをボランティアと認識していなかったから
4. 仕事が忙しかったから
  - 復興拠点としての特殊性

関西からの  
ボランティアには  
「1だ」と  
言われたが...

2012

## 被災地の選挙

- 東日本大震災によって、被災地の統一地方選挙は延期に・・・
- 被災地での普段目にしない風景
  - 有権者の再確認（郵送）と不在者投票登録の受け付け
  - 投票所・投票区の見直しとインターネット等を使った情報提供（選挙公報のWEB掲載）
  - 期日前投票所を巡回させる、期日前投票所の増加
  - 県外開票（福島県双葉町）
- 被災地の地方選挙は、多くの応援で「なんとか」できた
- ある職員は「もう少しITを利用したら・・・」とも

2012

## 被災地の選挙

- 投票率の低下が予想された
  1. そもそも選挙ができる環境にない
    1. 管理ができる環境にない・・・職員の被災
    2. 投票できる環境にない・・・有権者の確定・避難
    3. 立候補者の心の揺らぎ・・・選挙に出る雰囲気がない、自粛ムード
  2. 統一地方選挙からのずれ
    - 地方選挙を同日選にすると投票率が上がる・・・延期された結果、同日選効果が減る（仙台市）

2012

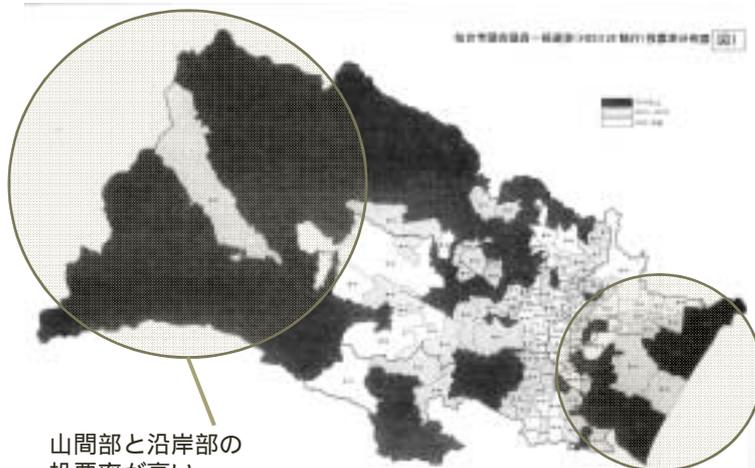
## 自粛広告（岩手県での事例）



- 候補者が選挙自粛を積極的にPRするという状況
- ただ・・・自粛した候補者の中には落選した者も

2012

## 仙台市議選の投票率

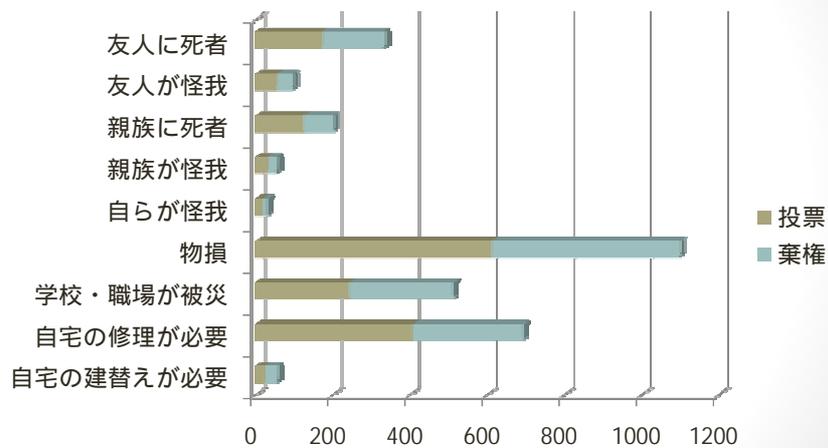


山間部と沿岸部の  
投票率が高い

出所：仙台市

2012

## 被災の状況と投票参加



2012

## 投票参加の要因分析

- 政治家任せはよくないという人が選挙に行った
  - ふだんでもありうるが、今回は「原発事故」によってより若い層がそう思うようになった
- 政党支持を持つ人が選挙に行った
  - ふだんでもありうる
- 知人・友人の被害が投票参加に影響
  - 動員の低下
    - コミュニケーション・ネットワークの分断
    - ソーシャル・キャピタル（人間関係資本）の喪失

2012

## 被災地の選挙の投票率

- 当初、投票率の低くなることが予想された
    - 被災で選挙どころの騒ぎではない
    - 遠方に避難しているのでは？
    - 自粛ムード
  - しかし、実際の投票率はかえって沿岸部は高かった
    - 選管の取り組み・・・期日前投票の奨励等
    - 被災者の意識・・・地域への愛着、政治への期待
- ・・・かえって内陸の方に自粛ムードが漂っていた

2012

## 福島県での取り組み状況

	相馬市	南相馬市	広野町	楢葉町	富岡町	川内村	大熊町	双葉町	浪江町	葛尾村	飯館村	新地町	備考
投票所や期日前投票所への巡回バス等を行	実施	実施			実施		実施		実施	実施		実施	
投票区の再編・1投票区内に複数投票所を設置			実施										
仮設住宅等に期日前投票所を設置		実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施		
選挙公報を新たに作成			作成			作成	作成	作成	※	作成			
選挙公報のホームページ掲載	掲載		掲載			掲載	掲載	掲載		掲載			福島県議選でも実施
選挙公報を全有権者又は世帯宛で郵送(避難所や仮設住宅の有権者には一部直接配布)			送付			送付	送付	送付		送付			

※作成予定であったが、町長選挙が無投票となったため、実際には作成せず  
また不在者投票用紙請求様式を有権者に郵送した自治体は34にのぼる

出所：福島県選挙管理委員会

2012

## おわりに

- 今回の震災をどう次につなげていくか
  - 記憶にどう残すのか・・・風化しやすい
  - 仕組みをどう変えるのか・・・政治・行政の課題
- 阪神・淡路の教訓はあったのか
  - ボランティア(新しい公共)など
  - しかし、「思いは熱いが、何をしたら」という団体も少なくないし、ボランティアやNPOに対する資金援助の環境も十分ではない
- ふだんの防災のあり方を見直す必要も
  - 広域被災への対応(防災協定、危機管理)
  - 余裕のない行政では、対応が難しい(公園のあり方等)

水道も  
電気もない  
生活への  
準備

2012